

「北海道・北東北の縄文遺跡群」

「今昔物語」

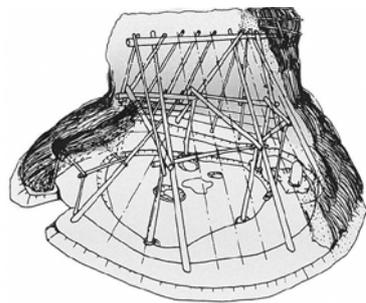
令和3年(2021)7月27日、北海道・北東北の縄文遺跡群が国連教育科学文化機関(ユネスコ)から世界文化遺産に登録されることが決定しました。平成17年(2005)に青森県の三村知事が縄文遺跡群の世界文化遺産登録を目指すと表明し、その後北海道・岩手県・秋田県を加えた4道県17遺跡の関係者が努力を重ね、17年目での悲願達成となりました。青森県は7自治体8遺跡で構成されていますが、下北地域の遺跡は選ばれていません。

しかし下北に遺跡がなかったわけではなく、東通村には139遺跡が登録され下北でも遺跡が多い地域です。石持納屋遺跡は有名な三内丸山遺跡と同時代の遺跡で、複数の住居跡が発見されたことから下北の中心的な集落遺跡と考えられています。今も遺跡の一部が残っており、発掘調査で出土した土器や石器がその価値を伝えてくれます。また、むつ市大畑の二枚橋2遺跡では縄文時代の土偶や土面が大量に出土し、これらは国の重要文化財に指定されています。残念ながら遺跡は開発行為によって全て壊されたため、世界文化遺産の価値が十分にありながらも失われてしまいました。

このように下北にも貴重な縄文遺跡や出土遺物があったことは確実で、まだ未発見の遺跡も存在しています。いつの日か下北からも世界文化遺産に追加されるような重要な遺跡が発見されるかもしれません。そしてその遺跡は皆さんの住んでいる近くに眠っている可能性があります。



石持納屋遺跡発掘状況
「石持納屋遺跡発掘調査報告書」より



石持納屋遺跡の竪穴住居の上屋想定図
「東通ダイジェスト版」より



石持納屋遺跡 出土土器
「東通村史歴史編Ⅰ」より

編集後記



今年度から、広報ひがしどおりは沢山の方に今まで以上に楽しんで読んでいただきたく、内容の充実化を図ってまいりました。特集記事『東通村に新しい風を』を開始し、沢山の方を取材させて頂きました。取材を行っていく中で、その方々の魅力や取り組んでいることに驚かされたり、知らなかったことを沢山知ることができました。

これからも読んでくださる方々が、読みやすい・面白い・役に立ったと思っただけのような広報紙を目指して参ります。

写真撮影や取材のお願いをする場面があるかと思いますが、何卒ご理解いただき、ご協力いただけますことをお願い申し上げます。

時々こうして、編集後記を掲載させていただきたいと思えます。



村内に咲いていたそばの花